

脳 PET 検査に使う薬剤について

ビザミル 185 MBq 溶液／フルテメタモル(¹⁸F)注射液(ビザミルの一般名)

◎この薬(フルテメタモル)の投与を受ける前に、説明文をよくお読みください。

1. ビザミルとは何か、何のために使われるのか

- ・この薬は診断専用の放射性医薬品です。
- ・ビザミルは活性物質フルテメタモル(¹⁸F)を含有します。
- ・脳 PET 検査により、脳内 β アミロイドプラークの有無を評価するために使用します。
- ・成人のみを対象としています。
- ・少量の放射線被ばくを伴いますが、診断上必要な場合にのみ実施されます。

2. ビザミルを使用する前に知っておくべきこと

- ・本剤には日本薬局方 無水エタノール 0.14 mL が含まれています。

<注意事項>

- ・アルコールに強いアレルギーがある方
- ・腎機能・肝機能に問題がある方
- ・妊娠中または妊娠の可能性がある方
- ・授乳中の方(注射後 24 時間は授乳中止)
- ・服用中の薬がある方

3. ビザミルの使用方法

<用量> 通常投与量:185 MBq/1 検査

<投与・検査> 静脈注射で投与後、生理食塩水で注射器内を洗い流し、必要量を確実に投与します。

<検査時間> 投与後 約 90 分 で撮像開始し、撮影時間は約 20~30 分かかります。

4. 起こりうるかもしれない副作用

すべての薬と同様に、この薬にも副作用が起こる可能性があります。

必ずしもすべての方に起こるわけではありません。

◎重大な副作用

アナフィラキシー(0.2%)

・アナフィラキシーを起こすことがあります。投与前に十分な問診を行い、投与後は注意深く観察します。

主な症状:顔面潮紅、呼吸困難、胸部圧迫感

これらの症状がみられた場合には、直ちに適切な処置を行います。

◎その他の副作用

以下の副作用が報告されています。

【1~5%未満にみられることがあるもの】

・循環器:潮紅、血圧上昇 ・消化器:悪心(吐き気) ・その他:胸部不快感

【0.5~1%未満にみられることがあるもの】

・精神神経系:頭痛、浮動性めまい(ふわふわする感じ)

*この放射性医薬品は、がんや遺伝性異常のリスクが非常に低い低線量の放射線を放出します。

*副作用と思われる症状があらわれた場合は、速やかに担当医にご相談ください。

*ここに記載されていない副作用があらわれる可能性もあります。

脳 PET 検査に使う薬剤について

Neuraceq 300MBq 溶液／フロルベタベン(18F)注射液(Neuraceq の一般名)

◎この薬(フロルベタベン)の投与を受ける前に説明文をよくお読み下さい。

1. Neuraceq とは何か、何のために使われるのか

- ・この薬は診断専用の放射性医薬品です。
- ・Neuraceq は活性物質フロルベタベン(18F)を含有します。
- ・脳 PET 検査により、脳内 β アミロイドプラークの有無を評価するために使用します。
- ・成人のみを対象としています。
- ・少量の放射線被ばくを伴いますが、診断上必要な場合にのみ実施されます。

2. Neuraceq を使用する前に知っておくべきこと

- ・本剤にはエタノールとアスコルビン酸ナトリウムが含まれています。
- ・15vol%エタノール(アルコール)は、用量あたり最大 1.2g 含まれていて、ビールにすると用量あたり 30ml、ワインにすると 12.5ml に相当します。アルコール依存症、アルコール不耐症の方はこの薬剤の使用は出来ません。
- ・ナトリウム(食卓塩の主成分)は、用量あたり最大 33mg 含まれています。これは成人の推奨される最大 1 日摂取量の 1.6%に相当します。

<注意事項>

- ・アルコールに強いアレルギーがある方(お酒が 1 滴も飲めない、極端にアルコールに弱い場合、検査できないことあり)
- ・腎機能・肝機能に問題がある方
- ・妊娠中または妊娠の可能性がある方
- ・授乳中の方(注射後 24 時間は授乳中止)→この期間は母乳を搾乳し捨ててください。
- ・内服中の薬がある場合は事前にお知らせください。
- ・注射後 2 時間は幼児や妊婦との密接な接触を避けて下さい。
- ・Neuraceq は車や機械の運転操作には影響を与えません。

3. Neuraceq の使用方法

<用量> 通常推奨される投与量は 1 検査あたり 300MBq(メガベクレル、放射能に使用される単位)

<投与・検査> 静脈注射で投与後、生理食塩水で注射器内を洗い流し、必要量を確実に投与します。

<検査時間> 投与後 約 90 分 で撮像開始し、撮影時間は約 20~30 分かかります。

4. 起こりうるかもしれない副作用

すべての薬と同様に、この薬も副作用を引き起こす可能性があります。

誰もが副作用を経験するわけではありません。考えられる副作用は次のとおりです。

◎10 人に1人程度発生する可能性があるもの

- ・注射部位の痛み、注射部位皮膚の発赤

◎珍しい(100 人に1人程度発生する可能性があるもの)

- ・全身障害および投与部位の状態： 発熱、灼熱感、四肢の不快感、四肢の痛み、注射部位周辺の強い痛みや不快感、注射部位の血腫(あざ、注射部位の黒と青の跡)、倦怠感、熱感、血中クレアチニンの上昇(腎機能の低下)
- ・胃腸障害(下痢、吐き気) ・肝胆道系障害(肝機能異常)
- ・皮膚および皮下組織障害(多汗症、発疹、麻疹型紅斑を伴う急性皮膚障害、水疱や潰瘍を形成する皮膚障害)
- ・神経系障害：頭痛、神経痛(神経の走行に沿った激しい、断続的な痛み)、振戦(不随意的な震えの動き)
- ・血管障害：紅潮(顔や首などの突然の発赤)、血腫(打撲傷、黒あざ、青あざ)、低血圧

*この放射性医薬品は、癌や遺伝性異常のリスクが非常に低い低線量の放射線をだしています。

*副作用とおもわれる症状がでた場合は、担当医に相談してください。

*この説明書に記載されていない副作用も含まれます。